

災害に事前に備える

① 家具等の転倒防止の備え

居住形態や家具の種類に合わせ、様々な固定方法があります。ポール式やL字金具を使用しなくても、収納箱の身近な素材の活用、複数の固定法を組み合わせ、より効果的に転倒を防止できます。

- ・家具の転倒防止
- ・リビング、キッチンの転倒防止
- ・寝室の転倒防止 など

② 災害用品の備え

必要に応じて、避難する際の物資を納めた非常用持ち出し袋など、自分にとって必要な物を考えて準備します。

持ち出せる量は、成人男性で約15kg、成人女性で約10kg、こども・高齢者で約6kgが想定されます。

- ・非常持ち出し袋
- ・貴重品の備え
- ・常時携帯する災害用品
- ・常用薬、お薬手帳の備え など

③ 備蓄品を確認して備える

日頃利用している食料品や生活必需品を少し多めに購入しておく「日常備蓄（ローリングストック）」の視点を持ちましょう。

- ・食料品の日常備蓄
- ・トイレや怪我への備え
- ・非常用に役立つキッチングッズ など

④ ペットの備え

災害時の避難先でほかの避難者に迷惑をかけない基本的なペットのしつけ、また食べ慣れているペットフードなどの物品が必要となります。

- ・ペットの社会化のしつけ
- ・ペットの最低限必要な災害用品 など

出典：政府広報オンライン「【防災特集】災害に事前に備える・災害時に命を守る一人ひとりの防災対策」を加工して作成

防災士の資格取得の助成をしています

『防災士』って？

“自助”“共助”“協働”を原則として、社会の様々な場で防災力を高める活動が期待され、そのための十分な意識と一定の知識・技能を修得したことを日本防災士機構から認証された人です。



町では、防災士の資格取得に要する経費5万円を上限として助成しています。

- 対象者 町内に住所を有するかた、または町内の事業所に勤務するかた
- 条件 ①資格取得後、町の防災士資格保有者名簿に登録し、行政区、自主防災組織及び消防団への名簿の提供に同意できるかた
②町などと協働して地域防災力向上のための活動を継続して行えるかた など

そのほかの要件などについては、右記の二次元コードからご確認ください。



出典：認定特定非営利活動法人日本防災士機構

問合せ先 総務課 消防防災係（2階③番窓口） ☎ 0224-53-2111

防災おおがわら

命を守る
防災対策



地震や水害などの自然災害は、時として、想像を超える力で襲ってきます。しかし、日頃から防災対策をしておくことで、被害を少なくすることはできます。

災害による被害をできるだけ少なくするためには、一人ひとりが自ら取り組む「自助」、地域や身近にいる人同士が助け合って取り組む「共助」、国や地方公共団体などが取り組む「公助」が重要だと言われています。その中でも基本となるのは「自助」、自らの命は自らが守る意識を持ち、一人ひとりが自分の身の安全を守ることです。

『自助』の取組がとても重要です

災害が発生したときは、自分が無事であることが最も重要です。「自助」に取り組むためには、まず、災害に備え、自分の家の安全対策を講じておくとともに、外出先などで災害に遭遇したときの、身の安全の守り方を知っておくことが必要です。

また、災害時に生き延びていくためには、水や食料など災害用品の備えをしておくことも必要です。防災対策に、「絶対大丈夫」ということはありません。防災対策だけでなく、一人ひとりが平時からハザードマップを確認し自宅の災害リスクを認識するなど、自分の周りにどのような危険が及ぶのかを考え、その被害をできるだけ少なくするために対策を講じることが重要です。

